

一言ご挨拶を申し上げます。

本日、「全国子ども神楽サミット」をここ「神話のふるさと島根」で盛大に開催できますことを、大変うれしく思います。

北は岩手県から南は宮崎県まで全国各地から、また、県内からは出雲・石見・隠岐の各地域から、合計20団体が参加して、日頃の活動の成果を発表されます。参加者の皆さまを心から歓迎いたします。

島根では、各地域ごとに、それぞれの歴史や文化にちなんだ「神楽」が盛んに行われています。県内の神楽社中は200団体以上にのぼり、地域の伝統芸能である「神楽」を子どもたちに受け継いでいく活動が積極的に行われています。

また、島根県では、子どもたち自らが地域の歴史・文化を知り、「ふるさと」を愛する心、誇りに思う心を育む「ふるさと教育」を推進しています。県内の小中学校ではその一環として、「神楽」の調べ学習や体験学習に取り組んでいるところもあります。

この大会を通じて、全国各地で「神楽」の継承活動に取り組んでいる子どもたちが交流することで、各地の「神楽」の歴史や文化に触れると同時に、それぞれの地域への愛着や伝統芸能を継承していくことの大切さを再認識する機会にしたいと考えています。

ぜひ最後まで、子どもたちへの暖かい声援をお願い申し上げます。

さて、今年は、ここ島根を舞台とした神話が数多く登場する「古事記」が編纂されてから1300年の節目の年です。県では、これを契機に「神々の国しまね」プロジェクトを進めており、そのメインイベントとなる「神話博しまね」を、11月11日まで出雲大社周辺を主な会場として開催しております。期間中には、神楽をはじめ、県内各地で様々なイベントを開催いたしますので、この機会に島根各地の魅力を満喫していただければ幸いです。

終わりに出演者や社中の皆さまをはじめ、本大会にご支援、ご協力を賜りました関係の皆さまに厚くお礼を申しあげ、ご挨拶といたします。